



各位

平成30年5月9日

会社名 古河電池株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小野眞一
 (コード番号 6937 東証第1部)
 問合せ先 取締役常務執行役員 高久繁
 (TEL 045- 336- 5034)

平成31年3月期の業績予想に関するお知らせ

当社は、本日発表しました決算短信におきまして、平成31年3月期の業績予想を公表いたしました。その業績予想は、平成28年5月26日に公表いたしました中期経営計画「2018年中期ビジョン（2016-18年）」の最終年度にあたりますので、下記の通りお知らせいたします。

1. 内容

● 経営数値目標

	17年度実績	当初		増減額
		18年度目標	業績予想	
売上高	605億円	800億円	640億円	△160億円
海外売上高比率	34.9%	53.1%	40.0%	△13.1%
営業利益	29億円	60億円	32億円	△28億円
営業利益率	4.9%	7.5%	5.0%	△2.5%

● 財務数値目標

	17年度実績 18年3月末	当初		増減額
		18年度目標 19年3月末	業績予想 19年3月末	
総資産	550億円	600億円	550億円	△50億円
有利子負債	105億円	120億円	100億円	△20億円
自己資本比率	42.4%	45.0%	45.0%	—
D/Eレシオ	0.5倍	0.4倍	0.4倍	—
ROA（営業利益ベース）	5.4%	10.0%	5.8%	△4.2%

● 設備投資金額

	当初	今回	増減額
	2016-18年計画	2016-18年計画	
合計（3年間累計）	160億円	70億円	△90億円
国内事業分野	60億円	40億円	△20億円
海外事業分野	100億円	30億円	△70億円

2. 上記の理由

当社グループは長期経営ビジョン「Dynamic Innovation 2020」の実現に向けて、「2018年中期ビジョン（2016-18年）」を策定し、その達成に向けて諸施策を講じてまいりました。

今般2018年度の業績予想を検討した結果、当初公表値との乖離がありましたので、ここにお知らせするものであります。

その主な要因は下記の通りです。

- インドネシアの合弁会社（FIBMと記します）における現地パートナーの販売力が予想外に低く、販売の停滞が続いていること。
- FIBMの販売の停滞に伴い、生産量が伸びず製造原価が下がらないこと。
- 国内においては、原材料価格の高騰が続くことで、主に産業分野における製造原価を圧迫、価格転嫁も進んでいないこと。
- 同じく産業分野におけるインフラ系の受注が停滞し、売上、利益ともに減少を見込む必要があること。
- 設備投資金額につきましては、当初M&Aなどの株式取得等も含んで検討していましたが、上記の課題に対する対策に集中するべく、設備投資のみとしたこと。

なお、上記の課題に対しまして、全社的な対策は現在進行中であります。

具体的には、次に記載しているような2019年3月期の数値目標達成に向けたアクションを展開して

おります。

- FIBMの完全軌道化に向けた全社によるバックアッププラン（マスタープラン）の策定と実行による製造力・販売力の根本的改革。
- 産業分野（主に今市事業所）への効率化投資を通じた製造原価低減活動の加速。
- 国内インフラ系需要に留まらず、海外も含めた再生エネルギー分野への注力と積極的営業活動の展開。

これらの諸施策を通じて今回公表した2018年度業績予想の必達を目指すと共に、今後は継続的に営業利益率5%以上を確保し、さらなる収益力の向上に努めながら持続的に成長可能なグループ会社経営に取り組んでまいります。

また、2019年度以降の経営計画につきましては、現在検討中であり、決定次第速やかに公表させていただきます。

以上

（注意事項）

本資料には、当社の将来における売上高・利益等の業績に関わる計画や見通しが含まれております。これらは、当社が現時点にて把握、入手可能な情報からの判断および想定に基づく見通しを前提としており、実際の業績等は大きく異なる場合があることを予めご了承ください。